



未来志創

よっしゃ! 彦貞晴ろう!



道徳で「本物の将棋指し-村山聖-」の授業をすると決めてから一冊の本を読みました。『聖の青春』という本です。これは村山聖さんの一生を物語にしたものです。また、この話は映画化もされています。何度も本を読み、繰り返し映画を観ているうちに、私自身が村山聖さんの生き方に感銘を受けるようになりました。同時に、そんな村山さんのライバルでもあった羽生善治さんの考え方も強さや奥深さを感じるようになりました。今日も、引き続き、羽生善治さんの記事を紹介させていただきます。



30年経って、ようやく気付けるミスもある!?

私に対戦を終えて「今日はどこも悪くなかった」と思えるのは、1年で1回あるかないかです。

ミスはもちろくないほうがいいと思います。ただ実際には、どうしても何かしらミスをしてしまいます。だからこそ大事なのは「ミスをしない」ことではなく、「ミスを重ねない」ということではないかと私は思っています。

ミスを重ねてしまう原因、その一つは**気持ちの動揺**です。

「なぜあんなことをしてしまったのだろう」「こうしておけばよかった」「何とか挽回しなくては」、そんな気持ちが頭をよぎって冷静さを欠いてしまうのですね。

もう一つの理由は「**難易度が上がる**」ということです。

ミスをする前は「今がどういう状況か」「どういう方針で行くか」「これから先どうなるか」など、考えが明確なので、正しい選択をすることができます。しかし一旦ミスをしてしまうと、それまでの考えや予想が崩れ、未来の方針も見えづらくなってしまいます。ですからミスをする前に比べると難易度がかなり高くなるのです。

気持ちが動揺する上に難易度が高くなることで、またミスを重ねてしまうわけです。

ミスを重ねないための方法として、一つは「**一息つくこと**」が大事だと思います。お茶やコーヒーを飲んだり外の景色に目を移してみたり。1、2分のちょっとした短い時間の**小休止**を取ることで、冷静さや客観性を取り戻すことができます。

もう一つ大事なことは「**反省と検証は後回しにする**」ということです。ミスをした直後、ついつい「あれをしなればうまくいったのに…」と考えてしまうんですね。

もちろん最終的には対局を振り返って反省し、検証する必要があります。でもそれはとりあえず置いておき、**今の状況に集中することを心がけなければいけない**のです。

ただ、私は「**ミスをする事自体が悪い**」とは言い切れないと思っています。なぜならミスをしたことと結果は必ずしも一致しないからです。**ミスから学ぶこともたくさんある**のです。

自分だけでなく、相手もミスをする場合があります。対局において、お互いにつづつミスをした時、それらが相殺されるかという点、そうではありません。私の経験上、後からミスをしたほうが不利になることが圧倒的に多いです。

自分がミスをしたことで相手のミスを招き、結果的にうまくいってしまうこともあるんですね。ですので、ミスがいい結果を導く場合もあるわけです。

それから、私は棋士になって約30年になりますが、デビューした頃の自分の試合を見ると、目を覆いたくなるほどです(笑)。

その時の自分は一生懸命やっていて「うまく指せたな」と思っていたはずですが、今見返してみるとおかしいところだらけなのです。

それはつまり、今の自分にも同じことが言えます。**今の自分が認識できるミスもあれば、ある程度年数が経ってみないと気付かないミスもある**のではないかと考えているのです。

そういう経験を繰り返すことで技術的に前に進んでいけるので、「**ミス**」というのも自分なりに許容していくことが**大事**だと考えています。

『日本講演新聞 2733号 (2018/03/12)』より

何か行動を起こせば、「ミス」は必ずと言っていいほどついてきます。そして、学習で言えばテスト、部活動で言えば大会といった緊張やプレッシャーがかかる時ほど、「ミス」の可能性は高まります。そのため、「ミス」をなくすることはできないかもしれませんが、「ミスを減らす」「大きなミスを防ぐ」ことならできるのかもしれない。いつそのこと、この話にあるように「ミスから学ぶ」という気持ちを常にもつようにすると、「ミスOK!」と気持ちが少し楽になるかもしれませんね。大切なのは「どう捉えるか」だと思いました。